

わだち

LOGISTEED
Public Relations Magazine
July 2026 vol.466

2026 夏 号

特集
生協の個人宅配でシェア率トップ
流通サービスが届ける
暮らしに欠かせないもの
達人ノ音漫画家
とんだばやしロンゲ
ロジステード陸上部選手たちのONとOFF
リチャード キムニヤン



生協の個人宅配でシェア率トップ 流通サービスが届ける 暮らしに欠かせないもの

埼玉県草加市に本社がある(株)流通サービスは
創業50年を超える歴史がある
飛び抜けた強みは、生活協同組合から委託される個人宅配事業だ
外部委託される生協の個人宅配でシェア率はトップを誇る
それぞれのドライバーが配達先で組合員と対面する業務
どのように信頼を得て、事業の柱となったのか
2025年からロジスティードグループの一員となった
流通サービスの事業を紹介する

Contents

03 特集

生協の個人宅配で
シェア率トップ
流通サービスが届ける
暮らしに欠かせないもの

10 時短レシピ

暑い夏にも火を使わず
レンジでパパッと作れる!
しっとりよだれ鶏

11 達人ノ音

漫画家
とんだばやし ロンゲ

14 ロジスティード陸上部選手たちのONとOFF

リチャード キムニャン

18 Topics

19 編集後記

わだち夏

ロジスティード広報誌
わだち 2026夏号
2026年7月1日発行
編集発行人 金田 陽子
発行所 ロジスティード 株式会社
〒104-8350 東京都中央区京橋2-9-2
Tel.03-6263-2803
印刷所 株式会社 日立ドキュメントソリューションズ

表紙
鐘つき通り(埼玉県川越市)
お問い合わせや感想はこちらまで
わだち編集事務局:
wadachi@logisteed.com

*「わだち」の無断転載はご遠慮ください。
*本誌内においては会社名の敬称を略しておりますので
何卒ご了承ください。



東北から九州まで、横のつながりで広がった 生協の宅配事業 できることに真摯に向き合う

全国にあるさまざまな生活協同組合（以下生協）の個人宅配業務で、外部委託される物流会社のシェア率ナンバーワンを誇るのが（株）流通サービス（以下流通サービス）だ。シェア率は約32%、個人宅配車両台数は2352台（共に2026年度実績）となっている。

「東北から九州まで合わせて26団体の生協から個人宅配業務や配達品のセトアップなどを受託しています。シェア率は他社を大きく引き離していますが、できること、できないことを明確にし、できることに真摯に向き合い、信頼を積み重ねた結果です。生協の仕事に関しては、ほとんどが生協同士の横のつながりで紹介をいただくかたちで広がっています」そう語るのは流通サービス取締役 個配本部長の山吹 誠さんだ。

週に一度、組合員と対面「見守り安心サービス」

もともと流通サービスは1974年、埼玉県草加市で日本生活協同組合連合会学協支所の倉庫保管・入出庫管理業務の受託会社として設立され、全国の学校生協に向けて出荷される商品の倉庫運営を行った。その後、一般の生協で扱われる食料品や

生活用品などの物流業務を受託するようになり、また化粧品会社からの受託で化粧品物流も手掛けるようになった。現在の従業員数は約5000名だ。

「生協の個人宅配と化粧品会社の化粧品物流が事業の2大柱となっていますが、やはり特徴的なのは生協の個人宅配です。ドライバーは約2000名いますが、その一人ひとりが組合員の皆様と対面し、コミュニケーションを大切にしながら配達品をお渡しします。基本的には毎週1回、必ずお伺いすることになり、生協が取り扱う季節のおすすめ品を紹介したり、次回の注文票をお預かりしたりします。

組合員様のご要望で『見守り安心サービス』がつくこともあります。これは配達時、組合員様の健康面で異常を感じた時や、在宅のはずなのにチャイムに反応がない時などにご家族に連絡するものです」

ただ物を運ぶだけではなく、組合員の皆様と直接的な接点を持つ「現場の最前線」としての役割を担う。そのため入社したドライバーには丁寧な研修制度が用意されている。安全運転、品質管理といった基礎的な研修に加え、生協の歴史を学んだり、組合員の皆様との関係性について理解を深める教育が用意されている。現場配属後も先輩や指



(株)流通サービス 取締役 個配本部長

山吹 誠

やまぶき まこと●2006年、営業職からの転職で流通サービスに入社。岡山県の藤田センターで配送担当（ドライバー）に就いた。その後、所長職などを経て大阪へ異動。2018年からは西日本エリアマネージャーとして荷主対応や現場改善などに従事。2022年に本社へ異動し、新設のソリューション統括部で長生研修所の教育カリキュラム刷新などに取り組んだ。2024年に取締役、運輸本部長に就任。2025年から個配本部長に就任した。「最初に担当したドライバーの業務が本当に楽しく、定年までドライバー職のままでいたいとさえ思っていました」と話す。





朝、パルシステム川越センターの荷捌き場で行われていた出発前の積み込み。まずはそれぞれのトラックのドライバーがその日、配達するルートと組員様宅を確認し、冷凍庫や保冷庫から取り出した配達品を積み込んでいく。配達には保冷ができる発泡スチロール箱、常温用の折り畳みコンテナが使われる。



パルシステム川越センターで朝の積み込みが終わり、出発前に行われるドライバーへの点呼。アルコール呼気のチェックのほか、その日の健康面やトラックの状態などの質問をドライバー一人ひとりに行う。

右／アルコール呼気チェックの様子。



導担当者による同行・実地訓練が時間をかけて行われる。「丁寧な対応ができ、高い接客マナーを身につけたドライバーは、病院や調剤薬局への対応配達が必要な医薬品の物流でもニーズが高く、医薬品物流の受託も増えています」

そんな流通サービスは2025年、ロジスティードグループの一員となった。

拠点の同床化ができたり、グローバルな物流で培われた効率化や品質管理の手法を取り入れることができました。またロジスティードで実施されている『VC (Value Change & Creation) 活動』を知り、昨年は6人の役員が分担して全国の営業所などをまわり、5000人の従業員と対話できる機会をつくりました。課題が見えたり、提案を受けたりして、とてもいい機会に

なりました。今年も実施します」と、山吹さんは新しい変化を語る。

朝礼を大切に みんなで協力する職場

生協の組員様宅に日々配達をしている個人宅配の拠点は全国87か所ある。その中の1か所埼玉県川越市のパルシステム川越センターを続いて紹介する。ここは生活協同組合パルシステム埼玉が運営する配送センターで、流通サービスは2012年から宅配業務を受託している。ここでの業務を話すのは所長を務める小川 裕司さんだ。

「このセンターでの受託は、トラック15台の稼働から始まりました。その後、信頼を得ていく中で稼働台数が増え、現在は多い日で38台のトラックが宅配業務を行っています。担当エリアは川越市とその周辺の市や町で、1台のトラックにつき60〜70軒、トータルで毎日約2300軒に宅配を行っています。それぞれ週に1回の宅配なので、受け持っている組員様は約1万2000軒になります」と小川さん。

「このドライバー同士が互いを気遣い、協力し合う雰囲気は荷捌き場の積み込み作業でも感じられる。積み込み作業は前夜に別の場所にあるセットセンターから運び込まれた配達品の中から、その日、自分が担当する組員様の配達分をピックアップし、取り出しやすい順番を考えながら荷台に積み込むことから始まる。配達する品物の保管用の温度帯は冷凍、冷蔵、常温、青果（野菜類）の4つに分かれる。ドライアイス、保冷剤を使い分けながら、手際よく荷台に収める。積み込みが早めに終わったドライバーは、他のドライバーの手伝いに行ったりする。「多い時は80軒ほどをまわる日があります。配達品も生鮮品や青果、飲料などの食料品から、時には長柄のホウキ、洗濯物ハンガーなど多岐にわたり、季節の気温に合わせてドライアイスや保冷剤の入れ方、量の調整が必要です。常温品や青果は冷えすぎる場合があるため、保冷車は使用していません。新人のうちは覚えることが多くて大変な

(株)流通サービス パルシステム川越センター 所長

小川 裕司

おがわ ゆうじ●流通サービスには2014年入社。東松山センターでの勤務を経て、2018年、パルシステム川越センターに異動。2024年に副所長、2026年4月に所長に就任した。



従業員同士が助け合える 楽しく、働きやすい 職場にしていきたい

稼働台数が増えたため、現在は朝の出庫を2回に分けている。「早朝組は6時半に出勤し、自分が担当するトラックにその日の配達品を積み込み、点呼を受けて、7時半には出庫できる状態になります。次の組は7時半出勤で同様に積み込み、点呼後、9時までには全車が出庫します。7時半の早朝組と次の組が入れ替わるタイミングで全員が集まり、15分ほどの朝礼を行います」

朝礼ではパルシステムのおすすめ商品の確認や日々の注意事項、そしてアンケートなどで寄せられたドライバーへの感謝の言葉、要望などを共有する。「この朝礼は全員が顔を合わせられる唯一の時間なので大切にしています。その日が従業員の子どもの誕生日だったりすると、その従業員が早めに帰宅をして家庭サービスができるよう『みんなで協力しましょう!』と話す



冷凍品、冷蔵品の梱包。保冷剤は冷凍用、冷蔵用の2種類があり、冷凍品にはドライアイスが使われる。その日の気温のほか、配達先の状況、配達品の順番など、適切に届けるために考慮しながら作業している。



作業になってしまいましたが、そんな時は7人いるリーダーや、先輩たちがフォローします」と小川さんは話す。

暮らしを支える 大切なライフライン

積み込み作業中、ひとときわ元気な声で確認や手伝いなどの声がけをしているのがリーダーを務める南 成輝さんだ。

南さんは2022年、流通サー

ビスに入社し、川越センター配属となってドライバー職に就き、2024年からリーダーに昇進した。

「以前は保険会社の営業をしていたのですが、転職してきました。車の運転と人と話すことが好きなので、その両方を叶えられる仕事を探していて流通サービスを知りました」と入社の際を話す。

「ここで働くようになってから



時の鐘

時の鐘は江戸時代初期の寛永4(1627)年～同11(1634)年の間に川越城主・酒井 忠勝が城下の多賀町(現在の幸町)に建てたものが最初とされる。その鐘の音は暮らしに欠かせない「時」を告げる役割を担ってきた。現在の鐘楼は、明治26(1893)年に起きた川越大火の翌年に再建されたもの。1日4回響く鐘の音は、1996年に環境省の「残したい日本の音風景100選」に選定された。

◎埼玉県川越市幸町15-7

蔵造りの町並み 川越一番街商店街

「小江戸」と称される川越を代表する観光スポット、川越一番街商店街。明治時代の川越大火後、耐火に優れた蔵造りの商家が建ち並ぶようになり、その町並みが今に残る。電線の地中化により黒漆喰磨き仕上げの壁と立派な屋根が特徴の蔵の魅力が一層引き立ち、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。商店街の加盟店は100店舗以上。「食べる」「買う」「観る」などで江戸情緒を満喫できる。

◎埼玉県川越市幸町



川越八幡宮

まもなく創建1000年を迎える川越八幡宮は、長元3(1030)年に甲斐守源 頼信によって創始された。平忠常が起こした長元の乱(1028～1031年)において、源頼信がこの地で必勝祈願を行い、乱を平定。その御神威に感謝して創建されたと伝わる。勝負事の神様として受験生やスポーツ選手からの必勝祈願も多い。境内には、ご神木である夫婦イチヨウ、足腰健康にご利益がある相撲福荷もある。

◎埼玉県川越市南通町19-3



川越城本丸御殿

川越城は長禄元(1457)年、上杉 持朝の命により、家臣の太田 道真・道灌親子が築いたとされる。江戸時代には江戸の北の守りとして重要視され、代々幕府の重臣が城主となった。本丸御殿の一部が現存し、一般公開されている。開館時間は9:00～17:00(入館は16:30まで)、入館料は一般100円、高校・大学生50円、中学生以下無料。毎週月曜(休日の場合は翌日)、第4金曜(休日は除く)、年末年始は休館。

◎埼玉県川越市郭町2-13-1

菓子屋横丁

石畳の路地に約30軒の菓子屋が軒を並べるノスタルジックな横丁。もともと江戸時代末期から江戸子に向けた菓子を製造する店があったが、大正12(1923)年の関東大震災で大きな被害を受けた東京に代わり、この地が駄菓子の製造・供給の一大拠点となっていった。昭和初期には70軒ほど軒を連ねた。昔ながらの飴菓子やふ菓子、団子などが並ぶほか、今風のスイーツやうなぎ料理も味わえる。

◎埼玉県川越市元町2丁目



(株)流通サービス パルシステム川越センター リーダー

南 成輝

みなみ なるき●2022年入社。週末は必ず休日となるので、今は3歳の娘がはまっている「電車」と「歩道橋」を見る散歩に一緒に出掛けている。

配達中の南さん。不在、在宅の組合員様の割合は半々。在宅の場合は配達品を確認していただき、手渡す。不在のお宅でも「パルシステムの南です」と声がけをして配達品を置く。



(株)流通サービス パルシステム川越センター 地域との関わりを大切に、プライドを持って配達を行う

2012年から個人宅配の受託業務が始まった流通サービス パルシステム川越センター。担当エリアは川越市を中心に周辺6市1町に広がる。「駅前の開発された街区もあれば、昔ながらの細い道の住宅街、大型連休には歩行者天国になる観光地など、さまざまなエリアがあります」と所長の小川 裕司さんは話す。

「それぞれのドライバーが日々、この地域の道を走らせていただいています。道端で転倒されている高齢者がいたら、ドライバーは真っ先に降りて救助します。センター周辺の清掃活動も行っています。それが私たちの地域との関わり方です」と続けて教えてくれた。

配達先でも幼い子どもがいる世帯では音を出さないようにしたり、帰宅が遅くなる共働き世帯の置き配には保冷剤を増やすなど、こまやかな配慮をドライバーが行っている。

「それぞれがプライドを持ち、自分が荷主様にとっての顔になって相對していることを意識して配達しています」と小川さんは語った。



従業員のみなさん。42名の従業員のうち5名が女性ドライバーだ。また、年齢層も幅広く19歳の従業員から50歳代の従業員が活躍している。

DATA	
住所	埼玉県川越市石田60-1
電話	049-229-2721
従業員数	42名

タツジンノオト

達人ノ音

第13回
この「達」にちなんで各分野の達人の声をノオトに記していきます

広報誌「わだち」は「和達」という漢字をあてた名前が由来です



漫画家
とんだばやしロンゲさん

インタビューの現場に「仮面」を持って現れたのは漫画家のとんだばやしロンゲさん。顔を出すのは「恥ずかしい」と、仮面での登場だ。デビュー以来、ギャグ漫画一筋で活躍し、子ども向けニュース月刊誌で持つ連載はまもなく150話を迎える。小学生も宇宙人もモンスターも、ごちゃ混ぜで登場する時事ギャグ漫画の作家のイメージは「ミステリアスなほうがいい」という思いも仮面に込められている。小学生の頃から漫画を描き続けてきたとんだばやしロンゲさんに漫画への思いを聞いた。

ミステリアスで「小心者」のギャグ漫画家

ロジスティードグループ保養所
サン・アンド・サン荘 伊豆高原
料理人が教える

時短
レシピ
vol. 2

ビールのお供に!



暑い夏にも火を使わず
レンジでパパッと作れる!
しっとりよだれ鶏

おつまみにも最適な甘辛味の「よだれ鶏」の作り方を
紹介します。脂肪分が少ない鶏むね肉を使うので
さっぱりヘルシーな仕上がりに。
失敗なくしっとり仕上がるコツも伝授します!

材料

【鶏肉の下ごしらえ用】
●鶏むね肉 1枚(約200g)
●料理酒 大さじ1
●砂糖 小さじ1
【たれ用】
●醤油 大さじ1
●酢 大さじ1
●砂糖 大さじ1
●ラー油 小さじ1
(※辛味が苦手な場合はごま油でも可)
●おろしにんにく 小さじ1
●長ネギみじん切り 1/4本分
●炒りごま 大さじ1(なくてもよい)

作り方

①鶏むね肉をフォークなどで刺し、数か所穴をあける
②①をトレーなどにのせ、下ごしらえ用の料理酒と砂糖をまぶしてなじませる
③耐熱皿に②をのせ、ふんわりとラップをかけて電子レンジで3~4分加熱する
④③を電子レンジから一度取り出し、鶏肉を裏返して再度電子レンジで3~4分加熱する
⑤④を取り出し、粗熱が取れるまで10~15分置いておく
⑥⑤を1cm幅にカットする
⑦ボウルにたれ用の材料をすべて合わせて混ぜ合わせる
⑧⑥を皿に移し、⑦のたれをかけて完成
※加熱時間は電子レンジ600Wの場合を想定

よだれ鶏とは、やみつきになるおいしさから「思い出すだけでもよだれが出る」という意味で名付けられた四川料理。日本でも大変人気のあるメニューです。茹でたり蒸したりした鶏に、本場では唐辛子の辛味や花山椒の痺れるような刺激のあるたれをかけますが、日本では辛味は控えめに、ごまなどでマイルドに仕上げる方が一般的かもしれません。

火を入れた鶏肉にたれをかけるだけで作り方はいたって簡単。電子レンジを使えば粗熱を取る時間を入れても30分程度で完成します。鶏のむね肉やささみは他の部位に比べて脂肪分が少なくヘルシーですが、火を入れすぎるとパサついた食感になってしまいます。それを防ぐ魔法のひとつが砂糖。糖分には水分を保持する性質があり、肉のタンパク質に絡まって水分と結びつくことで加熱しても肉が固くなることを防いでくれるのです。また、料理酒には糖分だけでなくアミノ酸も含まれているのでうま味をアップさせる効果もあります。

生焼けの鶏肉は食中毒を引き起こすことがあるので、中心部まで火が通っていることが必須。電子レンジで加熱する場合、表裏と2回に分けるとムラなく熱が入り安心です。加熱後もじわじわ火が入っていくので10~15分そのまま置き、粗熱が取れたら切って確認を。中心部にピンク色が残っていたら追加加熱をしましょう。

たれのレシピはやや甘めにしていますのでラー油の量を増やしたり、唐辛子や花山椒を加えたり、好みに合わせてアレンジを。レタス、キャベツ、トマト、ねぎなどが冷蔵庫にあれば、彩りよく盛り付けて召し上がってください。ちなみにこのたれは冷しゃぶや冷奴にも合いますし、唐揚げに絡めながらフライパンで軽く温めると韓国のヤンニョムチキン風にもなるので、いろいろお試しを!



サン・アンド・サン荘 伊豆高原
〒413-0234 静岡県伊東市池893-76
☎0557-55-2001

わだち 10

漫画家としてデビューし、28年のキャリアを持つとんだばやしロンゲさん。小・中学生の子ども向けニュース誌「月刊Newsがわかる」(毎日新聞出版)では「Newsがわからん!!」という、その時の流行や時事ネタを絡めたギャグ漫画を2014年から連載中だ。

この連載、ページ数は4ページだが、描かれるほぼすべてのコマにギャグがちりばめられている。1ページにつき7〜8コマで描かれ、毎話、計30ほどのギャグが展開される。あふれんばかりの笑いの熱量に圧倒される漫画だ。

照れくささでかついい漫画は描けない

「絵を描き始めたのは2歳か3歳の頃。白紙にコマを割って描く、いわゆる『漫画』を描くようになったのは小学3年の頃からです。当時は(週刊少年ジャンプで連載されていた『キン肉マン』が大ブームの頃で、そのキン肉マンを真似したようなバトル漫画やギャグ漫画を描いていました。同級生を漫画に登場させると、みんなに受けるんです。『次は俺が読む』と言って、クラスの中で回し読み

していました」と、振り返る。

この頃に住んでいたのは大阪だった。土曜の昼に下校するとテレビで「よしもと新喜劇」が放送されていて、子どもたちはみんなそれを観ていた土地柄、時代だった。「学校ではおもしろいことを言うやつがヒエラルキーの上に行くわけです。絵がうまいとか、漫画を描く奴は『陰キャ』に見られがち。自分が描いた漫画を読んでもらって受けていましたが、人気者になれたわけではありません。放課後は友達と外で遊んだりして、漫画は夜に描いていました」

中学時代はサッカー部に所属しながら、夜に漫画を描いた。この頃に描いていたのはギャグ漫画。



上／漫画の1コマ1コマに込めるギャグのアイデアを下描きするとんだばやしロンゲさん。このペンネームはデビューした頃の一時期、一緒に漫画を描いていた同級生が考えてくれたもの。「語呂の良さで『とんだばやし』というコンビ名となり、私がロン毛だったのでロンゲが付きました」とのことだ。下／下絵の原稿や愛用のペン。

「キャラクターがかっこいいことを言う漫画は恥ずかしくて描けませんでした。それは今も同じで、シリアスな漫画も泣ける漫画も描けません。自分の中に『照れ』があるのです。小学生の男子が写真を撮られる時、変な顔をするのは照れくささからだと思いますが、僕がギャグ漫画しか描けないのはそれと同じです」

中学卒業後は東京に出て、漫画家になろうとしたが、親の反対で地元の高校に進学。その後高校2年の時、少年ジャンプの漫画賞に規定の31ページの漫画を描き、応募した。「すると編集者から連絡があり、賞は取れなかったが担当には就きたいと言ってくれたんです。

そのあたりから親も認めてくれるようになりました」

高校卒業後、上京。ゲーム会社のグラフィック制作のアルバイトをしながら漫画を描き続けた。20代の始めの頃、小学館の漫画誌の新人コミック大賞での受賞をきつ

コロナ禍の時に漫画の着色はデジタル化し、パソコンなどで行うようにした。「それまではすべてアナログで行っていたのですが、そうすると原稿の入稿作業のために編集担当の方が出社しなくてはならないのです。最後の工程をデジタル化すれば、自宅作業が可能になるためようやくデジタルを導入しました」と話す。



かけに漫画誌でプロデビューした。「デビューまでは順調だったのですが、その後はまったくダメで、連載を持っても短期で打ち切りになったり、マイナー系の『原稿料が出ない』雑誌での読み切りだったりを繰り返していました。そのころ僕は商業的ではない突飛な作風だったので、大幅な作風の変更が必要になったからです」

通信教育の教材の中でギャグ漫画を長期連載

そんな中、その作風を「おもしろい」と声を掛けてきてくれたのが、通信教育の「進研ゼミ」担当者だった。

「通信教育の教材の中で、勉強法の紹介などを楽しむギャグ漫画で描いてほしいと依頼を受けました。

この仕事はその後、20年以上続きましたが、その間、18禁のアダルト系雑誌でもギャグ漫画の連載を持つたりして、その振り幅の大きさが自分でもおもしろかったです」また「進研ゼミ」でのギャグ漫画を見た「月刊Newsがわかる」の編集者からも声が掛かり、「Newsがわからん!!」の連載が始まった。

「メインの読者層は小学生、中学生です。中学受験を控えた子どもが読んだりする雑誌なので、ものすごく頭のいい子どもも読んでいます。どこまで笑いのハードルを下げるべきなのか、ひねりを利かせたギャグでも感じ取ってくれるのか、いつも試行錯誤しています。最終的には、小学5年生だった頃の自分がそのギャグで笑えるかどうかを基準にしています」

毎話のテーマは編集者から提示される。2026年のテーマだと「シール交換」「WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)の放映権」などだ。

物流業界の仕事も笑いを交えて紹介

今はどうなっているのだろうかとネットで調べてみます」そして考え抜いたギャグをつなぎ合わせ、4ページのネーム(下描き)にして編集者に見てもらい、OKが出れば、作画にとりかかる。1話を仕上げるのにかかる日数は10日ほど。「4ページに日数かけすぎです(笑)」

さらに特別編としてさまざまな業界の仕事紹介を描くこともある。「物流業界を紹介するため、ロジスティードの仕事をも4回に分けて描いたこともあります。ロジスティードの担当者さんからプロッ



「月刊Newsがわかる」特別編として4回連載した「ロジスティードがわからん」を1冊にした冊子。

トをいただき、そこにギャグを入れていきました。登場人物にヒョウ柄のパンツを履かせて登場してもらったりしましたが、すべて許していただき安心しました(笑)」自身のことを「小心者で、明るい性格ではなく、ギャグを考える時はスイッチを思いっきり切り替える必要がある」と言う。子どもの頃から一途に描いてきた漫画への思いについては「今となっては意地で続けている感じです。マラソンと同じではないでしょうか。立ち止まったりすると後悔しちゃうから、走りは無理でも歩きで続けています」と話す。そうやって、読者にとって息抜きになるような、笑える漫画を描き続けている。

とんだばやし ろんげ●大阪府出身。物心ついた頃から絵を描くことが好きで、小学3年生の頃からは自由帳にコマを割って漫画を描いていた。小学館新人コミック大賞での受賞を経て1998年頃、漫画誌「ビッグコミックスピリッツ」(小学館)でデビュー。本人は「打ち切りばかりで代表作は特になし」と自虐するが、「答えは3つ」「ぼくはツアコン(ぼくはツアーコンダクター)」(共に小学館)、「続いての神様どうぞ」(青林工藝舎)などがある。2014年から「月刊Newsがわかる」(毎日新聞出版)で「Newsがわからん!!」を連載。同誌が発行する特別編のムック本「(半導体がわかる2026)」「大関和がわかる」「物流がわかる」などでも漫画を描く。2026年2月に刊行された絵本「Yes! 左きき」(JTBパブリッシング)では作画を担当している。今夏から育児漫画の連載がWEB漫画雑誌にてスタート。

リチャード
キムニャン

□ ジスティード陸上部に所属して10年目になるリチャード キムニャンさんはケニア出身の長距離ランナーだ。

生まれ育ったのはケニア西部のバリンゴ郡にある町。「農場しかないような田舎の町です」とキムニャンさんは話す。通っていた小学校は丘の上にあり、家からは3キロほどの道のりだった。「昼食は自宅に帰って食べるので、1日2往復していました。合計12キロです。丘の上までの登校は大変でしたが、走る楽しさをこの時に感じていたのかもしれない」

小学生の時から足の速さが認められ、高校から本格的に陸上を始めた。17歳の時に世界ユース陸上競技選手権大会の3000mで優勝。来日後は10000mの国内レース最高記録を更新

新するなど活躍している。

キムニャンさんの息抜きは、陸上部のチームメイトであり、同じくケニア出身であるギデオ・ロノさんとのおしゃべりだ。「子どもの頃の思い出や、ケニア時代の陸上競技のことなどを話しています」。昼食や夕食も一緒に食べることが多く、ケニア人の主食のウガリや、そのほかの野菜料理と一緒に作ったりもする。

また、キムニャンさんにはケニアで暮らす両親と4人の姉妹1人の弟がいる。母親からはよくビデオ通話での電話がかかってくる。キムニャンさんからも週に1回は電話をし、日々の暮らしのことや練習のことなどを話すそう。

そして、これからの目標はマラソンにも挑戦していくことだ。その先の未来ではプロの陸上コーチになることを考えている。「まだ先のことですが、現役引退後はケニアに戻り、プロの陸上コーチになることが夢です。若い世代を育てて、才能を持つ選手を日本に送り出せたらと思います」と語ってくれた。

「小学生の時、先生に『君には走る才能がある』と褒めてもらいました」



Richard Kimunya ● 1998年生まれ、ケニア出身。2015年、コロンビアで開催された世界ユース陸上競技選手権大会の3000mで優勝。キロボンボーズ ハイスクールを卒業後、2017年に来日しロジスティード陸上部入部。



上／できあがったウガリを持ち、寮の自室のキッチンに立つキムニャンさん。中／キムニャンさんの私服姿。休日は近所の散歩で気分転換するほか、部屋で音楽を聴いたり、チームメイトのギデオ・ロノさんとおしゃべりをしてゆっくりと過ごす。お気に入りのミュージシャンはKipchamba。1970年代に活躍したケニア人シンガーソングライターだ。下／寮の自室でロノさん（左）と一緒に昼食を食べる。この時はウガリと牛乳だったが、ロノさんは料理が上手で、ウガリの付け合わせに野菜を使った料理をよく作ってくれるという。

Q 日本の食べ物で好きなものは？

A

ファミレスのチキンステーキや鶏の唐揚げなどが好きです。牛丼も好きです。寮の近くにあるのは吉野家で、時々食べます。コンビニでおにぎりを買って昼食にすることもあるのですが、具は鮭を選ぶことが多いです。

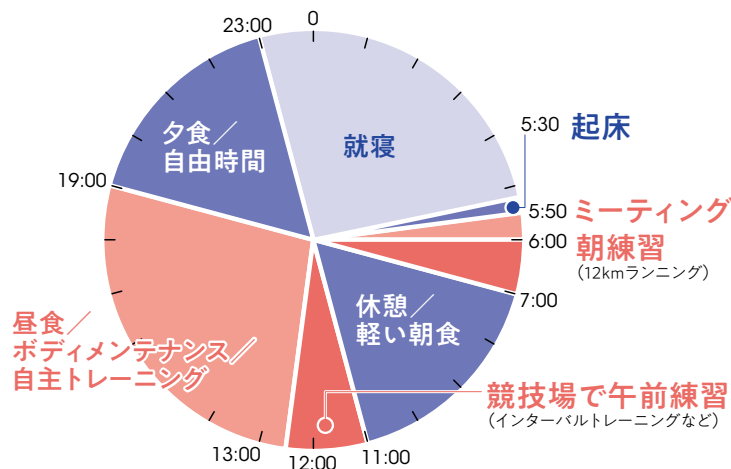


Q 応援してくださる方々にメッセージを！

A

みなさんの励ましがいつも力になっています。これからも応援をお願いします。レースの時の沿道からの応援では、「ngangana(ガガナ)！」と言って励ましてくれるとうれしいです。日本語で「ガンバレ!」という意味のスワヒリ語です。

1日のスケジュール



5:30に起床し、5:50から始まる陸上部ミーティングに参加。朝練として12kmを1時間ほどでランニング。その後、朝食代わりの甘いミルクティーを飲み、休憩。競技場へ移動して強度の高い午前練習を行い、午後はボディメンテナン／自主トレーニングの時間となる。夕食はロノさんと一緒に近くのファミレスで食べるが多い。

パーソナルベスト

3000m	7分44秒19
5000m	12分59秒44
10000m	26分54秒76
ハーフマラソン	59分37秒
マラソン	2時間07分36秒

2022年10月に10000mで日本体育大学長距離競技会へ出場し26分54秒76のタイムを記録した。この記録は未だ破られていない日本国内レース最高記録だ。マラソンの記録は今年3月に開催された東京マラソンでのタイム。

Q 陸上を始めたきっかけは？

A

小学校の先生に勧められたことがきっかけです。学校の運動時間に敷地の周りを走らされることがよくあったのですが、私はいつも1位で、先生に「才能がある」と言ってもらえました。本格的に陸上競技に取り組み始めたのは16歳の時からです。

Q ロジスティード陸上部に入部したのはいつ？

A

ケニアの高校を卒業後、2017年にロジスティード陸上部へ入部しました。高校時代にも日本のチームへの勧誘があったのですが不安に思っしまい断りました。その後、日本でのケニア人選手の活躍を知り、再び勧誘を受けたので来日を決めました。

Q 日本の印象と今のチームについて教えてください

A

来日した時は夏で、朝4時台に日が昇ることに驚きました。ケニアは7時頃なのです。夏の暑さにも驚きました。ケニアは高地が多く、それほど気温が上がリません。ロジスティード陸上部のチームメイトはみんなやさしく、とてもいいチームです。

Q 今年はマラソンにも初挑戦。これからの目標は？

A

今年3月の東京マラソンに出場しました。マラソンは初めての挑戦でした。完走したことで自信はつきましたが、目標としていた2時間5分には届かず、満足はしていません。9月に開催されるベルリンマラソン(ドイツ)に出場し、2時間4分をめざします。



ケニアの伝統民芸品であるビーズでできたケニアプレスレットは、見た目の美しさだけではなく、ケニア人としての連帯感を示すものであり、時に力も与えてくれる。日本で走る多くのケニア人選手にも愛用されており、キムニャンさんのプレスレットにはミドルネームが編み込まれている。

Q 休日の過ごし方は？

A

月曜から土曜までが練習日で、休日は日曜です。(千葉県松戸市にある)寮の周辺を散歩したり、たまにですが、電車に乗って柏駅まで行くこともあります。ロノさんと一緒に行き、駅前の商業施設を覗いてみたり、スターバックスで紅茶*を飲んだりします。

ウガリを作るキムニャンさん。ウガリはケニア人の主食だ。トウモロコシの粉をお湯で練って作る。ウガリはプレーンな蒸しパンのような食感と味わいがする。

*ケニアは世界有数の紅茶生産国として知られ、日常的に紅茶を楽しむ文化が根付いている。

国内フォワーディング機能統合

4月1日、(株)アルプス物流における国内フォワーディング機能を事業譲渡の方法により、ロジスティードグループのフォワーディング事業の中核を担うロジスティードエクスプレス(株)へ統合しました。



日本郵便との資本業務提携に基づく協業の進捗

ロジスティードホールディングス(株)とロジスティード(株)は、2025年10月6日に公表した日本郵便(株)との資本業務提携に基づき、国内・海外での協業推進体制の構築と検討・準備を進めています。



電動化促進に向けた実証開始

ロジスティード(株)と(株)REXEVは、物流における電動化の促進に向けた実証を開始しました。この実証では、ロジスティードの輸配送業務にEVTラックを導入し、実運用に即した検証を行うとともに、REXEVがこれまで培ってきたEV向けエネルギーマネジメントの知見と制御技術を活用し、EVTラック運用における電力利用の最適化と運用効率の向上を図ります。



「健康経営優良法人認定制度」4年連続認定

ロジスティード(株)、ロジスティード東日本(株)、ロジスティード中部(株)、ロジスティード西日本(株)、ロジスティード九州(株)の5社は、経済産業省と日本健康会議が選定する「健康経営優良法人認定制度」において、「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に4年連続で認定されました。



「QRコード」を読み取ると、ロジスティードのWebサイトから詳細がご覧になれます。「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

編集後記

漫画家のとんだばやしロンゲ先生は、特徴あるイラストタッチとギャグ満載の漫画を描く先生で、小学生向け月刊誌「Newsがわかる」で連載している「Newsがわからん!!」は毎回、ニヤつきながら読んでしまいます。ちょっとお下品、でもなんか楽しい漫画の世界は、子どもが好きな笑いの感覚を呼び覚ましてくれて懐かしい感じがします。(ポイントは何も考えずに読むこと)機会があったらぜひ読んでみてください。(金田)

「SSCV®自動点呼」が業務前・業務後自動点呼機器認定

安全運行管理ソリューション「SSCV-Safety」に実装した「SSCV自動点呼」の機能が、国土交通省の業務前自動点呼機器、業務後自動点呼機器として認定されました。



「つながる心 つながる力 みんなでつくる復興コンサート 2026 supported by ロジスティード」開催

ロジスティード(株)は、2026年3月7日に開催された「つながる心 つながる力 みんなでつくる復興コンサート2026」に特別協賛しました。東日本大震災直後から被災者に寄り添い、被災地各地で慰問演奏活動が続けている仙台フィルハーモニー管弦楽団の活動を応援する趣旨で、ロジスティードは2022年より協賛を行っています。今年はゲストに大竹しのぶさんを招き、みなさんの思い出に残るコンサートを一緒につくりあげました。



松戸市主催の「かけっこ教室」に協力

ロジスティード陸上部(以下、陸上部)は4月11日、千葉県松戸市が主催する春の青少年教室「目指せトップスピード!速さのヒミツ解明!かけっこ教室」に講師として参加しました。教室には松戸市の小学4年生から6年生63名が参加し、走るための基本的な体の動かし方やトレーニング方法などを陸上部の選手とスタッフがレクチャーすると、子どもたちは選手の説明を聞いて、真剣にトレーニングに取り組みました。陸上部は2021年10月に、「陸上競技を通じた地域振興・地域貢献の相互連携に関する協定」を松戸市と締結しており、両者の連携によって地域活性化に向けた取り組みを進めています。



顧客より表彰されました

ロジスティード東日本(株)首都圏輸送営業部 輸送営業所は、5月27日にコーユーロジックス(株)より、2025年度における顧客満足度向上に大きく貢献したとして称賛表彰を受けました。この表彰は、エンドユーザーおよび顧客営業部門による独自の採点方法に基づき、複数の同業他社とともに品質向上に取り組む中で順位付けが行われたものです。その中で輸送営業所は、日々の丁寧な対応や安定した運行が評価され、「称賛の声」が多く寄せられました。今後も、より一層の作業品質向上と運行管理の強化に努め、引き続きお客様の信頼に応えていきます。



松戸市内の小学校45校へ交通安全旗寄贈

ロジスティード(株)は、地域社会への社会貢献活動の一環として、千葉県松戸市内の市立小学校45校へ各校に50本ずつ、計2,250本の交通安全旗を寄贈しました。寄贈した交通安全旗には、子どもたちに親しみやすいデザインとして、ロジスティードがスポンサーを務めるプロバスケットボールチーム千葉ジェッツのマスコットキャラクター「ジャンボくん」をあしらいました。また、新1年生の登校初日にあたる4月10日には、松戸市を本拠地とするロジスティード陸上部の選手が、通学路の交差点などで交通安全誘導を実施しました。



J-WAVE「LOGISTEED RADIONOMICS」新ナビゲーターに鶴崎 仁香さん

ロジスティード(株)が提供しているJ-WAVE「LOGISTEED RADIONOMICS」の新ナビゲーターに、日向坂465期生の鶴崎 仁香さんが就任。4月からナビゲーターを務めています。2024年4月からスタートしたこの番組は、ビギナーの視点を大切にしながら、リスナーのみなさんと一緒に経済を学んでいくラジオ番組です。



